

【参考文献】

- ・アリエス、Ph. 『〈子供〉の誕生』みすず書房、1980年
- ・安藤寿康 『心はどのように遺伝するか』講談社、2000年
- ・石川謙 『我が国における児童観の発達』一古堂書店、1954年（1997年久山社から復刻）
- ・石田潤ほか 『ダイアグラム心理学』北大路書房、1995年
- ・イタール 『アヴェロンの野生児』牧書店、1967年
- ・乾彰夫 『日本の教育と企業社会』大月書店、1990年
- ・乾彰夫 「企業社会の再編と教育の競争構造」中西新太郎ほか 『講座現代日本2 日本社会の再編と矛盾』大月書店、1997年
- ・今橋盛勝 『教育法と法社会学』三省堂、1983年
- ・今橋盛勝 『いじめ・体罰と父母の教育権』岩波ブックレット、1991年
- ・内田亮子 『人類はどのように進化したか』勁草書房、2007年
- ・内田伸子 『発達心理学—ことばの獲得と教育』岩波書店、1999年
- ・内野正幸 『教育の権利と自由』有斐閣、1994年
- ・江森一郎 『「勉強」時代の幕開け』平凡社、1990年
- ・太田素子 「少子化傾向と子育て—近世日本」 『〈教育〉—誕生と終焉』藤原書店、1990年
- ・太田素子 『江戸の親子』中公新書、1994年
- ・太田素子編 『近世日本 マビキ慣行史料集成』刀水書房、1997年
- ・太田素子 「近世農民家族における子殺しと子育て—マビキ教諭書にみられる情愛と功利主義の性格」中内敏夫ほか編 『人間形成の全体史』大月書店、1998年
- ・太田素子 『子宝と子返し—近世農村の家族生活と子育て—』藤原書店、2007年
- ・大藤修 『近世村人のライフサイクル』山川出版社、2003年
- ・尾崎ムゲン 『日本の教育改革』中公新書、1999年
- ・小原秀雄 『教育は人間をつくれるか』農山漁村文化協会、1989年
- ・海後宗臣 『教育勅語成立史の研究』東京大学出版会、1965年
- ・海後宗臣ほか 『教科書でみる近現代日本の教育』東京書籍、1999年
- ・貝原益軒 『養生訓・和俗童子訓』岩波文庫、1992年
- ・影山昇編 『20世紀フォトドキュメント4教育』ぎょうせい、1991年
- ・勝田守一 『能力と発達と学習』国土社、1964年
- ・唐沢富太郎 『教育博物館』中、ぎょうせい、1977年
- ・荻谷剛彦 『大衆教育社会のゆくえ』中公新書、1995年
- ・菊本義治ほか編 『成熟社会のライフサイクル』リベルタ出版、2001年
- ・喜多明人 『新時代の子どもの権利』エイデル、1990年
- ・北本正章 『子ども観の社会史』新曜社、1993年
- ・鬼頭宏 『人口から読む日本の歴史』講談社学術文庫、2000年
- ・久富善之 『競争の教育』労働旬報社、1993年
- ・くもん子ども研究所編 『浮世絵に見る江戸の子どもたち』小学館、2000年
- ・黒崎勲 『教育と不平等』新曜社、1989年
- ・黒崎勲 『現代日本の教育と能力主義』岩波書店、1995年
- ・黒田日出男 『[絵巻]子どもの登場—中世社会の子ども像—』河出書房新社、1989年
- ・桑原武夫編 『ルソー』岩波新書、1962年
- ・ゲゼル 『狼に育てられた子』家政教育社、1967年
- ・グールド 『人間の測りまちがい—差別の科学史』河出書房新社、1989年
- ・グールド 『ダーウィン以来』ハヤカワ文庫、1995年

- ・ グールド『パンダの親指』（上）（下）ハヤカワ文庫、1996年
- ・ 小嶋秀夫・やまだようこ編『生涯発達心理学』日本放送出版協会、2002年
- ・ 斎藤研一『子どもの中世史』吉川弘文館、2003年
- ・ 斎藤貴男『機会不平等』文芸春秋、2001年
- ・ 榊原洋一『子どもの脳の発達 臨界期・敏感期』講談社+α新書、2004年
- ・ 佐倉統『現代思想としての環境問題』中公新書、1992年
- ・ 佐倉統『進化論という考え方』講談社現代新書、2002年
- ・ 佐藤達哉『知能指数』講談社現代新書、1997年
- ・ 佐藤秀夫編『続・現代史資料8 教育』みすず書房、1994年
- ・ 沢山美果子『性と生殖の近世』勁草書房、2005年
- ・ 島津久基『近古小説新纂』有精堂、1983年（1928年中興館刊の復刻）
- ・ 島泰三『親指はなぜ太いのか』中公新書、2003年
- ・ 下村哲夫編『児童の権利条約』時事通信社、1991年
- ・ シャプファー、H.R.『子どもの養育に心理学がいえること』新曜社、2001年
- ・ シュミット『ヘッケル伝』畝傍書房、1942年
- ・ ショルシュ、A.『絵でよむ子どもの社会史』新曜社、1992年
- ・ 鈴木光太郎『オオカミ少女はいなかった』新曜社、2008年
- ・ 鈴木忠『生涯発達のダイナミクス』東京大学出版会、2008年
- ・ 鈴木敏夫『江戸の本屋』中公新書、1980年
- ・ スタンプフォード、C.『直立歩行—進化への鍵』青土社、2004年
- ・ スプレイグ、D.『サルの生涯、ヒトの生涯』京都大学学術出版会、2002年
- ・ スミス、T.C.『日本社会史における伝統と創造』ミネルヴァ書房、1995年
- ・ 高橋恵子・波多野誼余夫『生涯発達の心理学』岩波新書、1990年
- ・ 滝沢武久『知能指数』中公新書、1971年
- ・ 竹内章郎『「弱者」の哲学』大月書店、1994年
- ・ 竹下秀子『赤ちゃんの姿勢と手のはたらきの進化』『科学』第69巻第4号、1999年4月
- ・ 館かおる『日本における「教」意識の展開—辞書にみる「教」「ヲシフ」の歴史』中内敏夫ほか編『人間形成の全体史』大月書店、1998年
- ・ 田端泰子ほか『女人、老人、子ども』中央公論新社、2002年
- ・ チャップマン、P.D.『知能検査の開発と選別システムの功罪』晃洋書房、1995年
- ・ 辻本雅史『「学び」の復権』角川書店、1999年
- ・ ドゥモース、L.『親子関係の進化』海鳴社、1990年
- ・ 永井憲一ほか編『解説 子どもの権利条約』日本評論社、1990年
- ・ 永井憲一編『子どもの権利条約の研究』法政大学出版局、1992年
- ・ 中内敏夫『増補 学力と評価の理論』国土社、1976年
- ・ 中内敏夫『教育学第一歩』岩波書店、1988年
- ・ 中内敏夫『〈教育〉の誕生 その後』『教育—誕生と終焉』藤原書店、1990年
- ・ 中江和恵『江戸の子育て』文春新書、2003年
- ・ 永野重史『発達とはなにか』東京大学出版会、2001年
- ・ 奈良貴士『ネアンデルタール人類のなぞ』岩波ジュニア新書、2003年
- ・ 西川亮子『人類はどのように進化したか』勁草書房、2007年
- ・ 西平直『教育人間学のために』東京大学出版会、2005年
- ・ 二宮宏之『全体を見る眼と歴史家たち』木鐸社、1986年
- ・ 根ヶ山光一ほか編『身体から発達を問う』新曜社、2003年
- ・ 橋本紀子『男女共学制の史的研究』大月書店、1992年

- ・長谷川寿一ほか『進化と人間行動』東京大学出版会、2000年
- ・濱田穰「コドモ期が長いというヒトの特徴」『科学』第69巻第4号、1999年4月号
- ・濱田穰『なぜヒトの脳だけが大きくなったのか』講談社ブルーバックス、2007年
- ・速水融『歴史人口学で見た日本』文春新書、2001年
- ・速水融・小嶋美代子『大正デモグラフィ―歴史人口学で見た狭間の時代』文春新書、2004年
- ・原ひろ子『子どもの文化人類学』晶文社、1979年
- ・バルテス、P. B「生涯発達心理学を構成する理論的諸観点―成長と衰退のダイナミクスについて」東洋・柏木恵子・高橋恵子編『生涯発達の心理学 I』新曜社、1993年
- ・服藤早苗『平安朝の母と子』中公新書 1991年
- ・服藤早苗『平安朝 女性のライフサイクル』吉川弘文館、1998年
- ・服藤早苗『平安王朝の子どもたち』吉川弘文館、2004年
- ・藤永保『幼児の心理と教育』有斐閣、1985年
- ・藤永保ほか『人間発達と初期環境』有斐閣、1987年
- ・広田照幸『教育言説の歴史社会学』名古屋大学出版会、2001年
- ・藤田秀雄編『ユネスコ学習権宣言と基本的人権』教育史料出版会、2001年
- ・藤田英典『教育改革』岩波新書、1997年
- ・藤田英典ほか『教育学入門』岩波書店、1997年
- ・藤原敬子「我が国における「教育」という語に関しての一考察」『哲学』第73集、三田哲学会、1981年。
- ・ブルデュー&パスロン『再生産』藤原書店、1991年
- ・ブルデュー&パスロン『遺産相続者たち』藤原書店、1997年
- ・ボーデン『ピアジェ』岩波書店、1980年
- ・ボールズ『心理学物語』北大路書房、2004年
- ・堀尾輝久『現代教育の思想と構造』岩波書店（同時代ライブラリー、1991年）、1971年
- ・堀尾輝久『現代日本の教育思想』青木書店、1979年
- ・堀尾輝久『人間形成と教育』岩波書店、1991年
- ・堀尾輝久『人権としての教育』岩波書店（同時代ライブラリー）、1991年
- ・ポルトマン、A.『人間はどこまで動物か』岩波新書、1961年
- ・ポルトマン、A.『生物学から人間学へ』思索社、1981年
- ・マーカス『心を生みだす遺伝子』岩波書店、2005年
- ・正高信男『0歳児がことばを獲得するとき』中公新書、1993年
- ・正高信男『ヒトはなぜ子育てに悩むのか』講談社現代新書、1995年
- ・正高信男『老いはこうしてつくられる』中公新書、2000年
- ・正高信男『ケータイをもったサル』中公新書、2003年
- ・正高信男『ヒトはいかにヒトになったか』岩波書店、2006年
- ・三井誠『人類進化の700万年―書き換えられる「ヒトの起源」』講談社現代新書、2005年
- ・水田珠枝『女性解放思想の歩み』岩波新書、1973年
- ・宮沢康人編『社会史のなかの子ども』新曜社、1988年
- ・宮島喬『文化的再生産の社会学』藤原書店、1994年
- ・無藤隆『赤ん坊から見た世界』講談社現代新書、1994年
- ・村上宣寛『IQってホントは何なんだ?』日経BP社、2007年
- ・安川寿之輔ほか『民主主義と差別のダイナミズム』明石書店、1987年
- ・山極寿一編『ヒトはどのようにしてつくられたか』岩波書店、2007年
- ・山住正己・中江和恵編『子育ての書 1～3』平凡社、1976年

- ・山住正己『日本教育小史』岩波新書、1987年
- ・横山重・松本隆信編『室町時代物語大成』第8巻、角川書店、1980年
- ・吉沢昇ほか『ルソー エミール入門』有斐閣新書、1978年
- ・米田俊彦『資料にみる日本の中等教育の歴史』東京法令、1994年
- ・ラター、M. 『母性剥奪理論の功罪』誠信書房、1979年
- ・ラブジョイ、C. O. 「二足歩行をしていた猿人ルーシー」『サイエンス』1989年1月号
- ・リーキー、R. 『ヒトはいつから人間になったか』草思社、1996年
- ・レイン、H. 『アヴェロンの野生児研究』福村出版、1980年